

2025 年度（令和 7 年度）学校評価自己評価表

福山市立東中学校区	校番 1	福山市立東中学校
最終更新日		2026年（令和8年）2月16日

I 福山市	ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 ビ ジ ョ ン 各中学校区・学校が資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
-------	---

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容 児童生徒の不登校や教職員の時間外勤務解消等については、各校で課題認識を共有するとともに、校区全体として更に改善を図る必要がある。	児童生徒の現状 校区で共通して行っている話し合う活動を通じて、授業中に考えを深めたり広げたりしている意識は高まっている。	育成する資質・能力 めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	課題発見・解決力、表現力、自他の尊重 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる子 全教職員が2つの部会に所属し、授業研究と実践交流を行う。 ①授業改善・ESD 部会 ②特別支援・長欠ゼロ部会
---------	---	---	---	---

III 自 校	ミッション 地域や社会に貢献する意欲を持った人材の育成	学校教育目標 自ら考え主体的に生きる生徒	現 状 <生徒> ・授業で考えることが面白い。78.7% (+3.4) ・友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めている。91.7% (+1.0) ・中学校の学校生活に満足している。87.3% (0) <教職員> ・授業で考えることが面白い 85% (0) ・生徒の学ぶ意欲を高め、主体的な学びを推進している。91% (+9) ・一方的に説明するだけでなく、生徒の疑問を広げるなど、授業の工夫をしている。100% (+5) () は前年度との差 全体的に前年度より数値が上がっており、生徒・教職員が学びに意欲的に取り組んでいるが、思考力やそれを刺させる基礎的な力に課題がある。	育成する資質・能力 めざす子ども像 一 学 年 二 学 年 三 学 年	課題発見・解決力 課 自ら課題を見つけ、既習の知識を活用し、他者とともに解決方法を考え実行する。 自ら課題を見つけ、既習の知識を活用し、他者とともに論理的・批判的に解決方法を考え実行する。 自ら課題を見つけ、既習の知識を活用し、他者とともに論理的・批判的に解決方法を考え実行し、新たな課題の発見につなげる。	表現する力 表 自分の考えや思いを整理して、分かりやすく、相手に伝える。 自分の考えや思いを整理して、分かりやすく、根拠に基づいて、相手に伝える。 自分の考えや思いを整理して、目的・場面・状況に応じて臨機応変に、相手に伝える。	自他の尊重 尊 自分を高めようと努力するとともに、考え方や感じ方が違う他者を、理解しようとする。 自分を高めようと努力するとともに、考え方や感じ方が違う他者と、共通の目標のために協力する。 自分を高めようと努力するとともに、考え方や感じ方が違うことの意義を理解し、多様な他者とともに新たな価値の創造に取り組む。	研究 テーマ 内容等	自ら考え、共に学び深め合う生徒の育成 ～生徒が主体を持つ協働的な学びを通して～ ・生徒同士の関わり合いを授業や行事の中に仕組み、生徒が他者と協働して課題解決を図る活動を通して、資質・能力（21世紀型“スキル&倫理観”）の育成を図る	めざす授業の姿 ・疑問や考えを質問・説明し合う活動『学び合い』を通して、考えを深めたり、広げたりしている。
---------	------------------------------------	-----------------------------	--	---	--	--	--	----------------------	---	--

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 東中 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力 評	達 成 評	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 達 成 評	達 成 評	総合 評 価	改善方策
1	主体的・対話的 で深い学びの推 進	★	新 規	他者との対話の中 で自分の考えを深 めたり広げたりし ている。	・生徒同士が考えを 広めたり深めたりす る『学び合い』を、必 要な場面で、全ての教 科で実施する。 ・授業ポートフォリ オの全教科実施 ・学習イベント実施	標準学力調査目標 達成率70%以上 生徒アンケート「授業 で、友だちと話し合 うなどして、自分の考え を深めたり、広げたり している」教科平均 60%以上（昨年5 4%）	・標準学力調査 1年 国63.7 数65.4 2年 国55.1 数46.2 目標値を下回った。 ・生徒アンケート結果 教科平均 93% 各教科で適切に「学び合 い」を設定し、実施できた。	3	2	・10月より5教科で、授業内5 分ドリル（基本内容）をし、毎 週復習テストを実施すること で、基礎学力の向上を図る。 ・1・2年生合同校内検定（国・ 数）、合同勉強会を実施し、学び 残しがないように取り組む。 ・各教科の「学び合い」で、よ り深い学びになるように場の設 定等を考える。	・生徒アンケート結果教科 科平均 91% 前半より少し数値が下がっ たが、各教科で前半より工夫 をして「学び合い」を実施で きた。 ・5教科復習テストの実施 満点表彰の実施 生徒の学習意欲を高めた。	3	3	3	・1・2年生の5教科復習テストの実施の継続 ・どんどんノートの 優秀者、月一でクラ スNo.1表彰の実施 ・教員同士の授業交 流により「学び合い」 の質の向上
1	ESD（持続可能 な開発のための 教育）の推進		新 規	探究的な学習の過 程に沿ってSDGs の課題について取 り組んでいる。	総合的な時間の単元 においてSDGsの取 組を位置づけ、取り組 み成果を各学年で発 表する。	生徒アンケート「授業 で、友だちと話し合 うなどして、自分の考え を深めたり、広げたり している」総合的な学 習の時間60%以上 （本年度から実施）	生徒アンケート結果 95.7% 各学年で、SDGsに関 連した調べ学習、発表等 に取り組み、それを通し て考えを深め、広げるこ とができた。文化祭でも 縦割りで探究活動を行う ことができた。	3	3	それぞれの活動の振り返りをし っかり行い、次年度よりよい探 究活動ができるようにするため に、討議・改善策を計画してい く。文化祭等でSDGsの調べ たことを引き続き実践してい く。	総合的な学習の時間 で、友だちと話し合 うなどして、自分の考え を深めたり、広げたり している。 1年生94.8% 2年生92.0% 3年生93.3%	3	3	3	年間を通じた、総合 の取組を行う中で、 生徒一人一人の探 究・発表の場を増や していく。3年間を 通した集大成の発表 を3年生が中心とな り文化祭で行う。
1	豊かな心・健や かな体の育成		新 規	自他の個性を尊重 し、協力し合い、主 体的により良い人 間関係を形成しよ うとしている。	校内フリースクール を中心とした学校で の居場所づくり 生徒が主体的に考 える学校行事・部活 動・ルールづくり	長期欠席者前年度 （46名）以下 生徒アンケート「東 中の学校生活に満足 している」90%以 上（昨年度87%）	・長期欠席者数9月末 時点（33人） ・生徒アンケート「東中 の学校生活に満足して いる」1年生84.3%、2年 生 83.1%、3年生 91.9%。	3	3	・新規長期欠席者は2名である。生 徒理解と細やかな家庭連携を行う ことで減らしていきたい。 ・問題行動が起き、生徒自身の生活 が窮屈になると数値が下がってい る。そこに気付かせ生徒が主体的に ルール作りを行えるようにしたい。	・長期欠席者数12月 末時点（42人） ・生徒アンケート「東中 の学校生活に満足している」1年 生86.3%、2年生80. 0%、3年生91.2%。	3	3	3	・新規長期欠席者 は5名。課題に応 じて対応する。 ・引き続き生徒と 一緒に学校の課題 を考え、取り組み を実践していく。
1	信頼される学校 づくり		新 規	学校運営協議会の 協力の下、家庭・地 域と連携した開か れた学校づくりに 努めている。	定時退校日の着実 な実施 不祥事防止研修の 計画的実施	保護者アンケート 肯定的評価75% 以上（昨年70%） 時間外勤務が月4 5時間を超える教 職員割合25% （昨年29%）	・保護者アンケート「東中 の教育を信頼している」に 対する肯定的評価は75. 3%となっており、目標値 を暫定的に超えている。 ・時間外勤務時間が月平 均45時間を超える教職員 は約44%。 学年内の呼びかけの意識 を高め、各個人でのタイム マネジメントを促した。ま だ在校時間記録の分析を 行い、必要場合は個人面 談の時間を取っている。	3	3	すぐる等を活用し、生徒や学校 全体の活動を遅滞なく発信するこ とで、開かれた学校づくりを推進 していく。 定時退校日の意識を全員で高めら れるよう、引き続き学年内で声 掛けをする。特定の教職員に過度 な負担がかからないよう、学校全 員体制でカバーし合える職場づく りを進める。教職員が本来従事す べき業務に専念できるよう、業務 内容の見直しを図り、各教職員の ワークライフバランスが充実する ようにする。	・保護者アンケート「東中の教育を 信頼している」に対する肯定的評価 は76%となった。 ・時間外勤務時間が月平均45時間 を超える教職員は約15%となっ た。 学年内等の声掛けが増え、退校 の意識がかなり高まった。 保護者宛の文書をメール配信の みにしたり、印刷業務を校務補 助員に依頼したりすることで本 来従事すべき業務に専念できる ようにした。	3	4	4	・コミュニティ・スクール を活用して、生徒と地域・ 保護者が協働する場を設 定し、その様子を遅滞なく 発信することで、開かれた学 校づくりを推進していく。 ・積極的に業務内容のス リム化をさらに推進す る。また、特定の教職員 に負担がかかり過ぎな いように、学年間や学校 全体としての業務のバ ランスを絶えず意識す る。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。